

# 身につく読書

2010.6.4



## 67億人の水 「争奪」から「持続可能」へ

橋本淳司・著

日本人が1日に使う水の量は、約320ℓ。2ℓのペットボトルで何と160本分だ。一方、世界には1日30ℓ以下の水で生活しなければいけない国が40カ国以上あり、その数は今後さらに増えると予測されている。

海水、北極・南極の氷河、地中深くにある水や汚染された水を除けば、地球上で私たちが使える水

の量は全体のわずか0.01%しかない。

また、日本は四方を海に囲まれ、降水量も多く、衛生的な水が何不自由なく手に入るため、水危機とは無縁と思われがちだが、水源林の荒廃や越境汚染、水道事業の運営など、実はいくつもの問題を抱えている。

本書は、約20年にわたり世界各地の水問題取材し続けてきたジャーナリストが、今世界で起きて

ユニークな事例、多数紹介

いる水問題を10の視点で解説している。国家間の水紛争、企業の水ビジネスへの参入が注目される中、限りある水を「持続可能な資源」として利用していくことの必要性を著者は説いている。

下水を浄化して飲料水をつくり出す技術、工場排水を使った野菜の栽培、発展途上国の過酷な水くみを解消するユニークなローテクなど、持続可能な利用に向けた国や企業、市民の新たな動きが多数紹介されており、現場の目線でわかりやすく書かれた1冊だ。

(日本経済新聞出版社、1680円)

■『デザイン思考が世界を変える—イノベーションを導く新しい考え方』ティム・ブラウン著、千葉敏生訳 世界最高のデザインファームの最高経営責任者（CEO）が、直感と論理を組み合わせ、革新的なアイデアを生み出す思考法を解説。（早川書房、1365円）

■『日本は世界5位の農業大国』浅川芳裕著 日本の農業は生産性が高く、生産額で見れば世界5位の農業大国。食料自給率が低いというのは間違いで、政府の政策が誤っていると厳しく批判する。

(講談社+α新書、880円)